

総合計画推進のための意見交換会で出された主な意見等（追加分）

1 はじめに

前回の主な意見等について、**資料10**で区分した(1)組織のあり方、(2)評価のあり方、(3)スケジュールに、(4)情報発信、を加えて整理を行いました。

2 意見等の概要と市事務局の検討状況

区分	意見の概要（ Ad はアドバイザー意見）	市事務局の検討状況
(1) 組織のあり方	⑥委員の選任について ・東海市は市民公募だが、能代市は今後も団体推薦を基本とするのか。 ・東海市と能代市は地域性がかなり違う。能代方式は団体が基本で良いと思う。 ・団体推薦以外の識見委員の考え方は。 Ad （新たに加わる委員に対して、これまでの経緯などを伝えるためには、例えば、策定時に中心メンバーだった人は、識見委員になり得るのではないか。）	・基本的には策定時と同様、団体推薦と識見を有する人から選任したいと考えている。識見委員は一定の基準により選任したいと考えているが、策定時の中心メンバーについては、策定の経緯などを熟知していることから、できれば識見委員としてお願いしたいと考えている。
	⑧委員の任期について ・委員の任期はどうなるのか。東海市はどうなっているか。	・要綱改正案では、任期は1年以内で、再任を妨げないとしている。東海市では、任期が2年で、毎年半数が入れ替わるようだ。
	⑨委員募集時の想定作業量等の提示について ・策定時は作業量が多く、通常の会議より回数も多かったが、推進時はどの程度の回数を想定しているか。また、委員募集の際、スケジュールや作業量、開催時間帯などを理解してもらう必要があるのではないか。 Ad （策定時も推進時も最初が大変である。策定時の状況、推進時の想定作業を知らせてイメージしてもらう方が良い。平日の夜間開催など、実状を知らせることも必要。）	・策定時は、分科会も含めて15回開催した。推進時は、10回程度を想定している。委員募集の際、あらかじめスケジュールや作業量、開催時間帯などを提示したい。
	④評価と予算について ・例えば、団体の活動なども評価（改善）の対象になり得るか。	・そこまで踏み込めるかわからないが、話が出れば検討していくことになる。
(2) 評価のあり方	⑤評価と提案について ・改善策を検討するための分野を絞り込む評価の作業に、策定時以上の時間がかかるのではないか。 Ad （評価を行って改善につなげていくのは、計画をつくるよりも大変なことかもしれない。ただ、評価に深く入り過ぎるとわかりにくくなり、やった意味がなくなってしまう。いかにわかりやすくできるかが課題。）	・目標指標に対する実績値をもとに、ある程度は機械的に評価ができる。ただ、市民の目線で実態とかい離しているものがないか、チェックが必要であると考えている。評価は、わかりやすさが大事であり、一番のポイントと考えている。

区分	意見の概要 (Adはアドバイザー意見)	市事務局の検討状況
(4) 情報発信	① 市民や議会への周知について	
	・市の考え方や協働会議の検討状況について、市民や議会に知らせていく必要があるのではないか。 Ad (総合計画(基本構想)は議決を経たものであり、その後の経過も議会に知らせる必要がある。)	・ホームページや広報紙で市民周知を図っていくことにしている。また、協働会議の提案によって予算に反映された内容に関しては、議会に説明し、議会の中で審議されることになる。今回の取組は初めての試みでもあるので、議会への周知については協働会議を進めながら検討していきたい。
	② ホームページの活用について	
	・協働会議以外にも、市民が参画している審議会等があるが、ホームページに載っているものと載っていないものがある。また、こうした審議会等の情報について、トップページから入れる工夫や横断的に見られる工夫ができないか。 Ad (市民が参画している審議会等はかなりの数があると思うので、市民の信頼度の面からも、一定の基準を設けてホームページに掲載する必要があるのではないか。)	・協働会議に関しては、策定時と同様にホームページでも周知を図っていく。ホームページ全般や各種審議会等に関しては、それぞれの担当課に働きかけていきたい。